

# ピア・サポートを活用した英会話セッションを通して英語運用力の向上を図る学習体制の構築\*

武田 和恵

## Developing a Learning System to Improve English Communication Skills through Peer-supported English Conversation Sessions

Kazue Takeda

### 要旨

2017年度春学期2週間、秋学期10週間、英米語英米文学科3・4年次生および言語文化研究科所属の大学院1年次生（計8名）にピアサポーターとして参加・協力してもらい、本学文学部外国語学科1年生を対象として、1対1の英会話セッションを授業の空き時間や昼休みの時間帯に提供し、英語運用力向上のための自立的学習体制の構築を試みた。教材は、必修科目eLearning I / IIで使用するオンライン英語学習教材（NetAcademy NEXT）の本文や英検2級・準1級2次試験の問題、TOEIC Speaking Testの問題などを使用した。参加者の受けとめと効果、ならびにピアサポーター側の意見はアンケートにより確認した。

This report is concerned with the peer-supported English conversation sessions which were provided for the first-year students of the Department of Foreign Languages, Bunkyo University, for two weeks toward the end of the spring semester, and for 10 weeks in the following fall semester in 2017. In an attempt to construct a learning system to improve English conversation skills outside the classroom, one-to-one conversation sessions were carried out by third- or fourth-year students of the Department of English and first-year graduate students of the Graduate School of Language and Culture. The materials used in the sessions were taken partially from the units in the online program NetAcademy NEXT, and partially from the interview sessions of the Eiken and the TOEIC Speaking Test. The participants and the peer-supporters were asked to provide feedback by answering questionnaires.

## I. 実施の概要

2017年度に開設した外国語学科1年生は、翌年2018年度春学期に3ヶ月から4ヶ月の短期留学への参加が必修であり、1年次はその準備期間として位置づけられていた。留学前に、海外で学ぶことに対する心構えを固め、英語でコミュニケーションするために運用力をできるだけ伸ばしておくことが望ましいが、開設初年度の1年生には、直接の先輩にあたる学年がおらず、日常的なやり取りを介した、経験者からの情報提供は難しい状況であった。

そこで、英米語英米文学科（以下英文科と表記）3・4年次生および言語文化研究科所属の大学院1年次生で、海外研修参加の経験がある学生の協力を得、授業外の時間帯に、1対1での英会話セッションを実施した。春学期に行った8日間を、試行期間と位置づけ、その反省を踏まえ、秋学期に約3ヶ月にわたり、計40日間、実施した。ピアサポーターが対応できる時間枠を前もって、教員が1年生に示し、参加を希望する1年生が担当教員に宛てて予約メールを送信するか、または授業時に予約を入れる方式で、1対1のセッションのスケジュールを立てた。実施時期、場所、実施回数、参加学生数、ピアサポーター数、セッションの内容は以下の通りである。

実施期間：2017年7月18日～27日

（土・日を除く8日間：56回のセッション）

参加学生：2017年度外国語学科1年生82名中55名（67%）が参加

内容：eLearning Iの内容と連動させた英会話

ピアサポーター：5名（言語文化研究科1年生2名、英文科4年生3名）

実施期間：2017年10月24日～2018年1月22日

（土・日・祝日・冬休みを除く40日間：437回のセッション、10月：6日間・46回、11月：18日間228回、12月：17日間121回、1月：9日間42回）

参加学生：2017年度外国語学科1年生82名中79名（96％）が参加

内容：eLearning II と連動させて実施、英検2級・準1級面接、  
TOEIC Speaking 対策

ピアサポーター：8名（言語文化研究科1年生2名、英文科4年生4名、3年生2名）

\*ピアサポーターは、個別に声をかけるかたちで協力を依頼した。全員英語教員免許取得予定者で、3週間～5週間の海外英語研修、もしくは4ヶ月～10ヶ月留学の経験があり、英語資格（英検2級もしくは準1級、TOEIC735～970点）を保持している。

英会話セッションに参加した1年生およびピアサポーターには、振返りのアンケートへの回答を依頼し、それぞれ82名中75名（91.4％）、8名全員（100％）から回答を得た。

## II. 実施の成果・意義

今回の取組みでは、授業外での英語の学習の場を提供することが、セッションに参加する学生およびピアサポーターとして関わる上級生にとって、どのような学びにつながるかを検証すること、ならびに、そのような場を提供するために必要なノウハウを探ることを目的とし、どのような仕組みやどのような学生への働きかけが必要かつ有効かを、授業外に行う1対1の英会話セッションの場をキャンパス内で授業期間中に

提供することを通して、模索した。英会話セッションで扱う内容もさることながら、セッションの枠の設定、予約の受け付けのしかた、セッションを行う環境の整備、ピアサポーターに必要な資質等多くの点で得るものがあつた。

当初の計画では、春学期10週間、秋学期10週間、英会話セッションを提供する予定であつたが、外国語学科の立ち上げや短期留学準備に手間取り、春学期は7月中旬に2週間実施にとどまつた。しかし、この期間においても、eLearning Iの授業での加点を提示した効果があつたらしく、所属学生82名中55名(67%)の学生が参加した。秋学期は、eLearning IIと連動させ、10月下旬から1月中旬の10週にわたり実施し、82名中79名(96%)が参加した。最低4回は参加するよう義務付けたが、4回以上の参加が95%以上を占め、延べ437回(参加者一人あたり平均5回以上)の高い参加率だつた。その一方、義務でなければ参加しないという意見も多くみられた。

以下では、秋学期に英会話セッションに参加した1年生に対して行つたアンケートの集計結果(75名分)から、幾つかの項目を抜粋して報告する。(【 】で示した数字は、当該項目を選択した人数を示している。)

### <伸ばしたい英語の力>

Q 英語に関する学習の中で、自分にとって優先順位の高いものを2つ選び、○をつけてください。

- ・ 文法を理解する 【8】
- ・ 語彙力を伸ばす 【35】
- ・ 読解力を伸ばす 【2】
- ・ 聞き取る力を伸ばす 【44】
- ・ 発音を上達させる 【9】
- ・ 英語で説明する力をつける 【43】
- ・ 英語で書く力をつける 【4】

<セッションへの参加回数>

Q 学期になってから英会話セッションに何度参加しましたか。

- ・ 0回【0】
- ・ 1回【0】
- ・ 2回【0】
- ・ 3回【0】
- ・ 4回【32】
- ・ 5回【23】
- ・ 6回以上【20】

<1回のセッションの長さについて>

Q 1回のセッションは、基本15分で、最長20分、本人の希望と空き時間があれば延長可という原則で行いました。1回のセッションが15分～20分であることについては、どう感じましたか。1つ選んで、○をつけてください。

- ・ 短すぎる【1】
- ・ やや短い【18】
- ・ ちょうどよい【55】
- ・ やや長い【0】
- ・ 長すぎる【1】

<eLearning IIの内容理解に対する有用性>

Q 今回のセッションは、eLearning IIで学んだ事柄の復習および定着に、どの程度役立ったと思いますか。1つを選び、○をつけてください。

- ・ 大いに役立った【16】
- ・ やや役立った【48】
- ・ あまり役立たなかった【10】
- ・ 全然役立たなかった【1】

<英検2次試験対策・TOEIC Speaking 対策としての有用性>

Q 今回のセッションは、英検2次試験や TOEIC Speaking に向けての準備として、どの程度役立つと思いますか。1つを選び、○をつけてください。

- ・ 大いに役立つ【23】
- ・ やや役立つ【49】
- ・ あまり役立たない【3】
- ・ 全然役立たない【0】

＜セッションに参加して得られた点＞

Q 今回のセッションに参加してみて、得られたもの・良かった点を3つまで選び、○をつけてください。

- ・英語を1対1でまとまった時間話す経験ができた 【35】
- ・授業や勉強法、留学など先輩の話が聞けた 【43】
- ・発音や英文の読み方、文法などを学べた 【13】
- ・TOEIC や英検等について詳しく知ることができた 【29】
- ・英語の運用力があがった 【7】
- ・自分の意見・考えを英語で表現することができた 【10】
- ・英語で話すことへの抵抗感が以前よりなくなった 【13】
- ・自分の苦手なこと、改善点などが明らかになった 【40】

これらのアンケート項目への回答結果から、1年生の多くが、「英語を聞き取る力」「英語で説明をする力」を伸ばしたいと考えている中、他者の目を気にせずに、身近な存在であるピアサポーターが、1対1で対応し、英語のみで会話を進行させる経験をできたことに対して、肯定的な評価がなされていることが確認できた。

ピアサポーターに関しては、春学期5名（院生2名、英文科4年生3名）、秋学期8名（院生2名、英文科4年生4名、3年生2名）の参加があり、いずれも本学協定校留学、私費留学、コンコーディア大学教員養成プログラム、マルタ春期英語研修、マギル大学イマージョンプログラム等の参加経験者であり、高い英語運用能力・コミュニケーション能力を備えていた。全員教職課程履修者であり、参加者に対して、丁寧かつ確かなフィードバックをそれぞれの判断で積極的に行う姿勢がみられた。

ピアサポーターが自らの留学経験に基づいて助言を提供したことにより、1年生対象の事後アンケートでは、ピアサポーターから多くのことを学べたこと、および彼らの熱心な対応に対して感謝のことは記載する学生が多数いた。参加者の1年生は外国語学科1期生であったため、直接の先輩がおらず、ピアサポーターとの個別セッションを通して、「英語学習や短期留学への心構えについて気づきを得られた」というコメントがアンケートで多くみられた。

事後に行ったピアサポーター対象のアンケートでは、ピアサポーターとして1年生をリードしていくのに必要だと感じる英語力や資質、準備に必要な時間、セッションを担当する難しさや負担感、ピアサポーターの経験を通して得られたものなどについて質問項目を設けた。アンケートへの回答では、参加した8名全員が、今回の経験を肯定的に捉えたと回答している。自らが教壇に立ち、「発音指導」や「オーラルコミュニケーションを中心とした授業展開」を求められるのに先立って、個別の学生と向き合い、それぞれの特性を感じ取り、それに応じたアドバイスの出し方等を経験する貴重な機会になったというコメントが多くあり、教員を目指す学生にとっても、1対1のセッションが、自身の経験値を高める場となることが確認できた。

### Ⅲ. 今後の課題および展望

今回の取組みにおいては、授業の評価と紐づけ4回までの参加を義務として課したため、全体として積極的な参加が見られ、その結果、1対1の英語のみでの会話の機会を持つことの有用性に、学生が気づくという結果が得られた。上級生と1年生の間の個別セッションでは、通常の授業では出会わない参加者の間に、ダイナミックな学びが発生することが確認できた。

その一方で、アンケートの回答には、義務でなければ参加しないという意見も多く、今後、キャンパス内で、より汎用性があり、履修科目とは独立して自由に参加できる形態で英会話セッションの提供を展開しようとする際には、学生たちに、授業評価と切離して、最初の一步をどう踏み出させようか、学生の忙しいスケジュールの中、参加継続を動機づけようか等が、検討課題である。なお、今回の参加者は、1年生であったが、2年次以上の学生にまで参加者を広げた形で運用を継続的に行うには諸々の困難さが予想され、併せて今後の課題である。

また、今回は詳述できなかったが、予約の重複がないよう調整を行いつつ、空いている枠を確認しながら、ピアサポーターと参加者をマッチさせ、スケジュールを確定していく作業は、かなりの時間と労力を必要とすることが判明した。予約を入れたにも関わらず、土壇場で連絡なしにキャンセルする学生もいたため、参加学生・ピアサポーター双方に大きな負荷がかからないよう、円滑に継続的な運営を行うことの難しさをどう克服できるかも、今後考える必要がある。

さらに、外国語学科上級生がピアサポーターとして英会話セッションを運営・提供することを考えたとき、ピアサポーターの育成についてのノウハウを確立していくことが不可欠である。短期留学を経験し、英語でのコミュニケーション力が向上した上級生と、これから短期留学に向けて準備を進めていく1年生の間をつなぎ、経験の共有・蓄積の場を、学科のプログラムの中で提供する方策を今後も探っていくにあたり、今回の報告がその出発点となることを願う。

\* 今回の取組みは、「平成29年度学長調整金による教育改善・研究成果の発表・事業・特定課題支援」により必要経費の助成を受けている。英会話セッションの会場としての教室使用では、教務課（当時の教育



支援課) スタッフに、セッション予約のためのオンライン予約システム構築の試みに関しては情報センター事務室スタッフより、協力を得た。ここに記し、関係各署に感謝の意を表したい。